

第15回  
全国果樹技術・経営コンクール  
受賞者の概要

主 催 全国果樹技術・経営コンクール実行委員会  
〔 全国農業協同組合中央会  
全国農業協同組合連合会  
日本園芸農業協同組合連合会  
全国果樹研究連合会  
公益財団法人 中央果実協会 〕

後 援 農 林 水 産 省  
日 本 農 業 新 聞

## はじめに

全国果樹技術・経営コンクール実行委員会  
委員長 吉 國 隆

当コンクールは、平成11年度から、生産技術や経営方式等において他の模範となる先進的な農業者、生産団体等を表彰し、その成果を広く紹介することにより、我が国果樹農業の発展に資することを目的として発足したものであります。

近年の果樹農業を取り巻く環境には厳しいものがあり、高齢化の進展や後継者不足、耕作放棄地の増加等による生産基盤の脆弱化、需要の伸び悩みや価格の変動などの問題に直面しております。このような状況に対応し、現在、果樹農業振興基本方針に即して、消費者ニーズに沿った品目・品種への転換、その後発生する未収益期間の支援、新たな加工需要の開発等果樹農家の経営安定と産地の活性化のための幅広い支援策が実施されるとともに、食育と一体となった「毎日くだもの200グラム運動」など果実の消費拡大対策が進められております。

このような施策が所期の成果をあげるためには、関係者の主体的な活動、とりわけ、産地の自助努力が必要かつ不可欠であり、産地振興の中核的役割を担っている方々の活動が最も重要であります。

このため、技術・経営のモデルとして受賞者の成果を広く普及するとともに、先進的な取り組みを実践している産地・生産者を励まし、施策の具体的な推進の中核的役割を担っていただくという視点から実施される当コンクールは、大変意義あるものと考えております。

第15回コンクールの受賞者の技術・経営の概要は以下に取りまとめられておりであります。いずれも、各地域において困難な諸条件を克服しつつ、独自の創意工夫や最新の知見の活用、計画的・効果的な投資、集団・地域の合意形成等主体的、積極的な実践によって、高い水準の技術・経営を身をもって達成し、他の模範となる方々であります。

受賞者の皆様には、長年にわたるご努力、ご研鑽に対し深く敬意を表し、心からのお祝いを申し上げますとともに、受賞を契機に、今後とも地域更には全国の果樹農業の中核的な先導者として一層ご活躍されるよう期待する次第であります。

終わりに、ご指導・ご協力を賜りました農林水産省をはじめ関係機関・団体の皆様、厳正な審査に当たられた審査委員の方々に対し、深甚の感謝を申し上げますとともに、引き続き本事業が多くの方々の果樹農業者の啓発や士気・意欲の高揚、更には我が国果樹農業の新たな発展に資する意義深いものとなるよう、今後ますますのご支援をお願い申し上げます。

## 農林水産大臣賞

- 青森県 にしつがるぐんあじがさわまち 西津軽郡鱒ヶ沢町 (りんご)  
きむら さいき 木村 才樹

加工用りんごが6割を占める14haの大規模りんご経営である。ほかに水田45haを経営している。

経営面では、労働力として家族3人のほか、氏が役員を務める農業生産法人から延1,340人日を臨時雇用している。

また、加工用の「紅玉」は、地元ジュース加工会社と安定した価格の長期契約栽培により全量出荷し、「紅玉」以外は、上記の農業生産法人で乾燥りんごや酢、ジャム等に加工して販売する6次産業化に取り組んでいる。

技術面では、加工用栽培は、10a当たりの植栽密度を通常の2倍の30～40本の密植を行い、切り戻しせん定による樹形作り、摘果や着色手入れの省略化、出荷規格の簡素化で、収量は生食用の県平均単収の2倍となっている。また、総労働時間は振り落とし収穫法による省力化などで県平均の4分の1に削減し、所得率は約6割と生食部門よりはるかに高くなっている。

さらに、剪定枝チップと稲わらなどを原料に堆肥を作り、地域未利用資源を再利用して低コスト化を図っている。

- 山梨県 こうしゅうし 甲州市 (ぶどう)  
ひろせ かねしげ ひろせ すみえ 広瀬 金重 ・ 広瀬 寿美恵

施設ぶどう50a、露地48a、合計98aのぶどう専作経営である。

経営面では、施設栽培を中核とし、露地を組み合わせ、4月から9月の長期出荷により、家族2人労働主体の安定経営を実現している。

技術面では、県が開発した「ピオーネ」の「超早期加温多収栽培」を最初に導入し、露地の3倍の高い収益を実現している。また、本技術の定着のため、果粒肥大を図る夜間電照技術や良好な果房を得る二度切りせん定栽培を導入した県内初の短梢栽培実証園を提供し地域果樹農業に貢献している。

エコファーマー資格を取得し、牛糞堆肥など有機質主体の施肥体系と土壌中に圧搾空気を注入するグロースガンを導入した土作りに取り組むとともに交信かく乱剤使用により防除回数を2割削減している。

地域にあっては、JA生産部会等の役員として、高齢化の進展に対応した省力化のため、短梢せん定栽培への転換をリードするとともに、新品種の「シャインマスカット」などの基本技術講習会を推進し、地域の果樹農業の発展に貢献している。

○ 静岡県 <sup>はままつし</sup> 浜松市 (かんきつ)  
<sup>ごとう</sup> 後藤 <sup>つよし</sup> 剛 ・ <sup>ごとう</sup> 後藤 <sup>みわこ</sup> 美和子

早生温州 200a、青島温州 860 a、合計 1,060 a の大規模みかん専作経営で、県内トップクラスの経営である。

経営面では、家族 3 人と常時雇用 2 人、農繁期にはパート 2 人、収穫期はさらに 20～30 人を雇用する企業的経営であり、生食用出荷量 230 トンを全量 JA に出荷している。

地域互助組織の作業受託組合を有志で立ち上げ、高齢農家の作業を請け負う中で、園地を 3 箇所に分地化しながら経営規模を拡大してきた。また、計画的な基盤整備と園内道を設置した改植等により運搬、施肥・防除、収出庫管理等の機械化・省力化を図っている。

技術面では、大苗による早期成園化、「青島温州」の高温予措技術利用による年内出荷、マルチ栽培や点滴かん水により、高品質安定生産に取り組むとともに、静岡県版 GAP 認証を取得、推進している。

地域にあっては、農業者組織の役員を歴任し、中・高校生の体験学習や大学生などの研修を積極的に受け入れ、地域果樹農業の発展に尽力している。

○ 和歌山県 <sup>かいなんし</sup> 海南市 (かんきつ)  
ながみね農業協同組合 <sup>しもつかんきつぶかい</sup> 下津柑橘部会 (代表者 <sup>おかもと</sup> 岡本 <sup>よしき</sup> 芳樹)

部会員 352 戸でかんきつを 298 h a 栽培している。極早生温州から早生温州、高糖系温州まで約 7,000 トン、取扱金額は約 15 億円で、半分の 3,500 トンを「蔵出しみかん」として 1 月後半から 3 月上旬に出荷している。

地域団体商標の「しもつみかん」を取得するとともに、樹園地登録制度と糖酸センサーにより、園地ごとの品質検査に活用し、適地判定や品質の均一化、レベルアップに反映している。

極早生温州、早生温州は 8 月からの全戸での果実分析により、クエン酸の程度で園地の出荷時期をタイプ分けし、品質の均一化を図るとともに、糖酸センサーにより糖度で差別化商品作りに取り組んでいる。

全部会員の品目・園地ごとの栽培履歴の提出や GAP の導入、「蔵出しみかん」を使用したストレート果汁ジュースやゼリーなどの加工品づくり、さらには、みかん輸出にも取り組んでいる。

## 農林水産省生産局長賞

○ 長野県 <sup>いいだし</sup>飯田市 (なし)

みなみ <sup>しんしゅうのうぎょうきょうどうくみあいかじつきょうぎかいなしぶかい</sup>信州農業協同組合果実協議会梨部会 (代表者 <sup>おおしま</sup>大島 <sup>もとゆき</sup>素行)

農協の広域合併で一本化した 998 戸の JA 品目部会で、なしを 480 h a 栽培し、共同出荷額は約 23 億円。部会員と JA 技術員が一体となって生産性向上によるブランド確立に取り組んでいる。

地元農業試験場の育成品種「南水」の早期産地化を図るため、「二十世紀」に高接更新し、産地を代表する品種としての地位を確立している。

販売面では、選果結果を同日 FAX 配信し適熟収穫を徹底し、目視第一級で一定以上の糖度をクリアした「太鼓判」と目視第二級で一定以上の糖度をクリアした「優糖生」の規格統一を図り、消費者の信頼を得ている。

長期冷蔵可能な「南水」の特徴を活かし、消費地冷蔵庫で保管、1 2 月後半まで長期の調整販売を行うとともに、台湾への輸出にも取り組んでいる。

技術面では、交信かく乱剤の使用による防除回数の削減、生産・防除履歴の収穫前完全提出の徹底など安全・安心な生産に取り組んでいる。

○ 愛知県 <sup>がまごおり</sup>蒲郡市 (かんきつ)  
<sup>おざき</sup>尾崎 <sup>やすひろ</sup>恭啓 ・ <sup>おざき</sup>尾崎 <sup>ひろこ</sup>弘子

施設 92 a (ハウスみかん 75 a、ハウスデコポン 17 a)、露地 84 a (うんしゅうみかん 60 a ほか 24 a)、合計 176 a のかんきつ専作経営である。

経営面では、地域の 2 倍以上の大規模面積を家族 3 人主体で経営し、全量を JA 出荷している。

また、4 月上旬に出荷する極早期加温のため、夏期の地温冷却システムを導入するとともに、燃油高騰対策として、全加温ハウスにヒートポンプ、三重被覆等の省エネ技術を導入し、暖房コストを低減させ収益を確保している。

技術面では、露地みかんの「宮川早生」は、マルチ栽培と 8 月からの糖酸分析によるかん水管理等により高品質化を図るとともに、隔年交互結実栽培により毎年の収量を安定化し、ブランド品「箱入り娘」として出荷している。

また、「不知火」をハウスで越冬させ 4 月に収穫する「樹熟デコポン」は、高糖度で食味がよく、市場で高い評価を得ている。

地域にあつては、農協組合長として、これらの省エネ技術や新商品の導入に尽力し、農協の平成 21 年度日本農業賞受賞に貢献している。

○ 香川県 <sup>たかまつし</sup>高松市 (かんきつ)  
<sup>あきやま</sup>秋山 <sup>のぼる</sup>登 ・ <sup>あきやま</sup>秋山 <sup>としこ</sup>紀子

露地みかん 222 a、中晩柑 87 a (露地 16 a、ハウス 71 a)、キウイフルーツ 11 a、合計 320 a の果樹専作経営である。

経営面では、離農者園地を利用権設定により地域で最大規模の経営面積に規模拡大。極早生系統、晩生系統、中晩柑をバランスよく導入し、収穫期間の長期化と長期貯蔵による出荷期間の延長などにより労働力を分散して、家族 4 人労働と臨時雇用で対応し、ほとんどを農協出荷している。

技術面では、ハウス栽培跡を利用して、収穫を 1 1 月から 2 月まで遅らせた屋根掛け完熟の「越冬みかん」を隔年結果で省力化、コスト低減栽培するとともに、「小原紅早生」をマルドリかん水管理により高品質安定生産し、管内の 2 倍の単価で販売するなど高収益型果樹経営を実践している。

また、冷房付き貯蔵庫を導入し、「青島温州」などのみかんを 4 月中旬まで高単価で出荷し、その後に「不知火」を貯蔵して中元商材として有利販売するなど省力的で収益性の高い経営は、地域の若手生産者の模範になっている。

○ 愛媛県 <sup>まつやまし</sup>松山市 (かんきつ)  
<sup>やまもと</sup>山本 <sup>つよし</sup>剛 ・ <sup>やまもと</sup>山本 <sup>ゆき</sup>由紀

かんきつ露地 203 a、施設 59 a、合計 262 a のかんきつ専作経営である。

経営面では、露地は伊予柑中心、施設は中晩柑で販売額の 6 割を占め、労働分散可能な品種構成により家族 4 人労働が主体で全量農協出荷している。

技術面では、施設の「不知火」は早期成園化と品質揃い、安定収量、作業効率が向上できる垣根栽培を行い、防除施設を導入して省力化している。また、無加温で 4～5 月に収穫する完熟栽培の「葉付きデコポン」は市場で高い評価を得ている。

露地は、スプリンクラー防除・かん水施設を導入し大幅に省力化するとともに、「せとか」「南津海」「甘平」など越冬品目へ更新して労働の分散化を図り、さらに、越冬果実の鳥害対策に防鳥施設の設置を基本としている。

農家貯蔵庫から個人荷造りする「蔵出し伊予柑」や熟成して 3 月に出荷する「弥生紅」など 45% をこだわり出荷し、JA 平均の 1.5 倍の高単価で儲かる農業を実践し、地域の模範になっている。



○ 大分県 <sup>きつきし</sup>杵築市 (かんきつ)  
<sup>おち</sup>越智 <sup>はるき</sup>春樹 ・ <sup>おち</sup>越智 <sup>さちこ</sup>幸子

露地みかん 100 a、ハウスみかん 21 a、ハウス「不知火」22 a、屋根掛け「不知火」7 a、合計 150 a のかんきつ専作経営である。

経営面では、ハウスみかんが粗収益の約半分を占め、家族労働中心に全量を農協出荷している。

技術面では、ハウスみかんは、毎年強めにせん定し結果母枝を更新、さらに有機物投入により細根を増やし樹勢を維持。亜主枝、側枝は誘引配置して受光状態を確保することで、地域平均の 1.4 倍の 7,200kg の高単収を確保している。加温前に、水挿し法と花芽分化に関与する遺伝子発現量分析による着花予測を行い、加温を開始し着果安定につなげている。さらに、ハウス外周部の溝掘り、断根、浸水防止により浮皮を抑制、発生予察で適切防除を行い秀品率を上げている。「不知火」は早期摘果による大玉生産で高単収を維持するなど基本技術の励行で好成績をあげ、地域の模範になっている。

露地みかん「青島温州」は、隔年交互結実栽培法を導入し、省力化と裏年の収益増、さらに地域の隔年結果の是正をめざし、施設かんきつと組み合わせた経営モデルを確立している。

○ 沖縄県 <sup>いしがきし</sup>石垣市 (パインアップル)  
<sup>いしがきしま</sup>石垣島 <sup>せいかくみあいなぐら</sup>パイン生果組合名蔵 (代表者 <sup>へいあんな</sup>平安名 <sup>さだいち</sup>貞市)

組合員 6 戸、栽培面積 19 ha のパインアップル完熟生果生産出荷組織である。生産組織としては石垣島で最初の完熟パインアップルの共選出荷組織で出荷先は集荷業者が 70%、直売が 30% である。

品種ごとに糖酸比 18 以上の収穫・出荷時期の設定や不良系統の淘汰により食味と品質を確保するとともに、出荷時期の前進化が可能な新品種を導入し、単価の向上と労働力平準化を実現している。

組合員全員によるほ場の果実品質調査により、品質のバラつきを防ぐ適期収穫を徹底するとともに、組合員自らの改良によるパインアップル種苗植付機を考案し、植付け作業の機動力アップ、サトウキビやカボチャとの輪作栽培による連作障害防止を図るなど経営改善に取り組んでいる。

地域における完熟パインアップル生産出荷組織の旗手として、島全体の栽培技術のレベルアップと U ターン、I ターン、研修生など新規就農者の育成に寄与している。

## 全国農業協同組合中央会会長賞

- 鳥取県 <sup>とうはくぐん ゆりはまちょう</sup> 東伯郡湯梨浜町 (なし)  
<sup>しみず あきと</sup> 清水 彰人 ・ <sup>しみず ようこ</sup> 清水 葉子

日本なしを 80 a 栽培するなし専作経営である。

経営面では、家族労働 2 人を主体に、農繁期の臨時雇用で対応し、全量を農協出荷している。

技術面では、棚面を埋め尽くすように枝が配置され、側枝を作らない短果枝せん定（かずらせん定）により高い収量を実現し、7 割を占める「ゴールド二十世紀」の単収は県内トップクラスの 5～6 トンを安定的に維持し、「東郷梨ブランド」としての高単価と相まって、高位の粗収益と高い所得率を実現している。

また、病虫害防除に交信かく乱剤の使用を先駆的に取り組み、10 年以上継続し、農薬散布回数を削減している。

果実部の指導会長として、整枝せん定の指導、防除歴、施肥設計の作成、GAP の取組等を中心的に担うとともに、農業未経験研修生の受け入れなど果樹農業後継者の育成にも積極的に取り組んでいる。

- 宮崎県 <sup>さいとし</sup> 西都市 (かんきつ)  
<sup>さいとしかじゅしんこうかい</sup> 西都市果樹振興会 <sup>ぶかいほうざいぼるちくかんきつくみあい</sup> かんきつ部会宝財原地区柑橘組合  
(代表者 <sup>ささき しろう</sup> 佐々木 四郎)

組合員 4 名の選果場共同の組合で、極早生温州 4.5 h a、早生温州 1.5 h a、日向夏等 4.0 h a、合計 10 h a を栽培し、極早生みかんの共同出荷額は 117 トン、4,000 万円を超えている。

技術面では、県農試で開発した根域制限栽培を先駆的に取り入れ、糖度 10.5 度以上、酸 1 度以下の「南国の陽蜜（ひみつ）」という地域ブランド名で販売、市場から高い評価を得て、契約販売率は約 8 割となっている。

また、スピードスプレーの共同購入・共同利用による省力化と適期防除、元肥にコート肥料、追肥に液肥を葉面散布し、環境にやさしい農業を実践している。

「南国の陽蜜（ひみつ）」は地元の人気が高く、直売所で完売するとともに、市の学校給食にも提供し高い評判を得ており、地元の極早生温州生産者にも新たな取り組み方向を示している。



## 全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

- 山形県 <sup>なんようし</sup>南陽市 (おうとう)  
<sup>すずき</sup>鈴木 <sup>たけみつ</sup>威光

おうとうのハウス 27 a、露地 73 a、合計 1 h a のほか、りんご 27 a、西洋なし 20 a、合計 147 a を栽培する果樹経営である。

経営面では、ハウスを導入して労働力を分散し、家族 3 人と臨時雇用で対応し、おうとうの露地の 8 割、ハウスの 1 割を直売している。

また、燃費高騰と雪害回避から加温開始を 3 月に遅らせ、出荷時期を露地物の直前に調整し、収量を抑えて下位等級を少なくし、高品質化による生産性向上とブランド確立を図っている。

技術的には、広樹間のせん定により日当たりを確保して樹勢を維持、結実確保のため受粉樹を全体の 3 割導入、同時に人工授粉とミツバチの利用により結実対策を万全にするとともに、きめ細かい摘芽による着果調節で安定した着果数の確保と高品質生産を実現している。また、エコファーマーとして環境保全型農業に積極的に取り組んでいる。

地域では、JA さくらんぼ部会長として、全員参加の園地巡回研修や大田市場での品評会の開催など産地としての技術力と評価高揚に努めている。

- 茨城県 <sup>ひがしいばらきぐんいばらきまち</sup>東茨城郡茨城町 (くり)  
<sup>しもいぬまくりくみあい</sup>下飯沼栗組合 (代表者 <sup>とうがさき</sup>東ヶ崎 <sup>じゅんいち</sup>順一)

栗の品質向上と計画出荷を目的に昭和 43 年に設立した生産・出荷組織で、組合員 12 名で栗を 40 h a 栽培し、共同出荷額は約 4 千万円である。

経営面では、収穫後の洗浄、くん蒸、集荷、選別、出荷作業を共同実施している。また、低樹高栽培が向いており、実が毬から離れ落ち収穫が容易で、出荷に向け貯蔵期間が短い晩生品種の「石鎚」に統一し、1 毬 1 果の大果生産、全果洗浄、冷温貯蔵、個選、共選、厳選を徹底し、洗浄・貯蔵栗という独自ブランド栗は地域平均単価の約 3 倍の 1000 円/kg を上回っている。

技術的には、実の座部の汚れを取り除き貯蔵中の腐敗を防止する揺動式栗洗浄機を独自に開発し、特許取得している。また、臭化メチル代替のヨウ化メチル剤くん蒸の二重天幕くん蒸施設を開発し、全国普及に貢献している。

「飯沼栗」として、ブランドを確立し、高値で販売されるようになったことから、栽培を止めた栗園を引受け、大規模経営となり後継者の育つ経営環境となっている。

## 日本園芸農業協同組合連合会会長賞

- 山梨県 <sup>にらさきし</sup> 韮崎市 (おうとう)  
<sup>りほくのうぎようきょうどうくみあいかんこう</sup> 梨北農業協同組合観光さくらんぼ部会 (代表者 <sup>しみず ひでき</sup> 清水 秀樹)

さくらんぼのリレー観光を図るため、市町村をまたいで広域的に各地区の部会を統合し、農業者、JA、行政が一体となって地域としての観光農業の魅力向上に取り組み、地域の新しい産業を創造している。

園地の標高差(400m~1000m)を利用して観光園の受け入れ時期のピークをずらし、1か月半を超える長期間のさくらんぼ狩りを実現し、毎年2万5千人の観光客を受け入れている。

また、各園での接客対応に差が生じないように、接客マニュアルの作成、配布と研修により、サービスの向上やトイレ等の設備の統一を図っている。さらに、観光客が摘み取りやすく、管理しやすい仕立法を新たに導入している。

生産安定のため、共同の受粉樹園を設置し、支部単位でミツバチやマメコバチを導入・飼育するとともに、大玉で食味向上の均一化のため、適正な着果量の徹底と適期防除、牛糞堆肥を積極的に利用している。

- 長崎県 <sup>さいかいし</sup> 西海市 (かんきつ)  
<sup>つじお まさゆき</sup> 辻尾 政幸

露地みかん 344 a、露地中晩柑 49 a、合計 393 a の大規模かんきつ経営である。

経営面では、家族4人労働が主体で、温州みかんの半分と中晩柑の8割は、貯蔵施設を確保し、市場の動向を見極めて出荷し、所得向上を図っている。

また、経営面積の6割まで借地を増やして団地化と規模拡大を行うとともに、園内道路の整備によりスピードスプレヤーの利用、軽トラックの園地横付け等作業の効率化を図るなど機械、施設への計画的な設備投資で健全経営を実践し地域の模範となっている。

技術面では、完熟牛糞堆肥や剪定枝チップの施用による細根づくりや7割を超えるマルチシートの被覆により、高品質、省力・低コスト生産を実践している。

地域にあっては、鳥獣への餌付け防止のため、樹上果実を残さずすべて収穫、また伐採、除草に取り組むなど、農業委員として地域の担い手の中心的な役割を果たしている。

## 全国果樹研究連合会会長賞

- 岩手県 <sup>にのへし</sup>二戸市 (りんご、ブルーベリー)  
<sup>なかさと</sup>中里 <sup>ひさお</sup>久雄 ・ <sup>なかさと</sup>中里 <sup>きょうこ</sup>恭子

りんご 505 a、ブルーベリー 50 a など合計 577 a の大規模果樹経営である。経営面では、家族 4 人と臨時雇用で対応し、りんごの 7 割、ブルーベリーの全量を直売等で販売している。

また、りんご生産組合員の園地を積極的に受け入れ、団地を維持して規模拡大を進め、計画的改植で 4 割が育成園となっている。また、100%わい化栽培と独自開発の側枝下垂型樹形で作業効率を向上させている。

技術面では、わい化栽培やエコファーマーの先駆者として地域を牽引するとともに、高糖度で蜜入りりんご「はるか」の摘果やせん定方法を確立し、県ブランド「冬恋」の技術指導に貢献している。

地域にあっては、地元の旅館業者と連携して観光りんご園やブルーベリーのオーナー会員制観光農園を設置するとともに、挿し木繁殖技術や大玉栽培方法を指導し、観光農業推進協議会の会長として観光農業を牽引している。

## 公益財団法人中央果実協会理事長賞

- 沖縄県 <sup>くにがみぐんひがしそん</sup>国頭郡東村 (パインアップル、タンカン)  
<sup>たまき</sup>玉城 <sup>ただお</sup>忠男

パインアップルのハウス 23 a、露地 408 a、タンカン 100 a、合計 531 a の大規模果樹経営である。

経営面では、家族 4 人の労働力で対応し、加工用パイン (N67-10) は全量 JA へ、生食用パイン及びタンカンは直接市場出荷と直売をしている。

また、収穫期の異なる品目を組み合わせ、労働力の分散と年間を通して所得の確保を図っている。

技術面では、氏独自の管理技術で高品質な大苗生産と 2 年後に収穫する「2 年 1 収」の栽培体系を実現することにより、栽培と種苗確保が困難だった生食用パインの「ゴールドバレル」が品種登録されるとともに、本人名の商標登録で販売するなど、県下で初めてパインアップルの高級贈答用果実としての地位を確立し、新たな販路を切り開いた。

また、氏が実践している加工用パイン「N67-10」の「4 年 2 収」栽培体系は、多くの農家が参考にし採用されるなど、地域の技術確立に貢献している。